

1班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) フューチャー・デザインを行ったことで、人との繋がりを大事にできる社会・地域が実現している。
- 2) 大家族化が進み、社会全体で子育てができるようになっていく。
- 3) 自由になりたい・やりたいことができる教育環境も整備された。
- 4) 特に高知県では農林水産業が見直され、従事する人が増え、そこで家族をもうけることができ、晩婚化も防いでいる。
- 5) エネルギー政策は省電力・バイオマス発電・太陽光など脱炭素化が実現し、クリーンな社会になっている。
- 5) 平和な世の中が持続していたことが今に繋がっている。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a. 日本を先駆けて高知県がフューチャー・デザインに取り組んだおかげでフューチャー・デザインが実現できる社会になった。
- b. (①について) 南海トラフ地震に備えての防災・減災の取り組み（地域社会のつながりを強化することでソフト面がクリアに。企業のBCPもしっかり改善・計画ができた）
- c. 核家族が見直されて大家族化が進んだことにより、農林水産業は危機的状況から脱した。
- d. 農林水産に従事する人が増えたことが晩婚化も防げるようになった。

2 班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) 地震が起きたが人口は62万人に増えて、自然を使ったビジネスで経済が回っている。
- 2) 地元大学の地元枠ができた。(地元の学生は奨学金の支給があり、卒業後、地元で就職すればそれが免除となる仕組みができた)
- 3) 日本一の幸せ実感県高知という言葉が全国で知られ、県外からの移住者が増えている。
- 4) エネルギーは、84%の山林を使ってバイオマス発電に移行している。そのための労働(発電のための伐採)も生まれた。
- 5) バイオマス発電所(熱電併給)は小さなものをあちこちに作ることで農家もそこに集まるようになっている。電気は県外に売電もしている。
- 6) 高知県独自のキャンプ場などアウトドア環境が充実し、地元でお金が回る仕組みも実現している。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a.南海トラフ地震が起こったときの初期対応には高知に自衛隊があったということが大きい。
- b.企業がBCPを充実させたことで被害は最小限になった
- c.地震の予測ができるので皆で準備もでき、ニュース等で地震の備えを呼び掛けたことで備蓄もできていた。
- d.県庁を福井町に移転し、移住促進施策で浸水地域の建物が少なくなっていた。
- e.ドローンの発展で震災時は救援物資の補給もできた。(高速道路も影響が多くなかった)
- f.男女の育休取得の実現して、教育費の無償化(高校まで)県の子育て支援を充実させた。
- g.雇用促進は地元企業が積極的な採用をしたため。
- h.交通の発展で関西圏への通学が可能となり、大学の地元枠も充実していった。
- i.小さなバイオマス発電所をあちこちに作ることで農家がそこに集まり、電気は年中、たくさん作れている。

3 班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) 南海トラフ地震が起こり人口は50万人を下回ってしまったが、みんな幸せに過ごしている。
- 2) 農業・漁業の技術革新が起きて収穫量が増えた。
- 3) コンパクトシティが進んだ。
- 4) 交流人口が増えて自給自足や、アウトドアフィールドを使った哲学的な楽しみ方をしたりと、高知県は日本の中では進んだ県になっている。
- 5) このような高知にいろんな県、国から訪れる人が増えている状況になった。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a. (③について) 種子島と平均気温が同じになることを予測して、気候、温度、一次産業への影響についてしっかり分析をした。
- b. 高知と種子島の際について理解を深めたうえで対策を講じて、次世代型の農業やITの水産業の技術を更に発展させ、種子島と同条件になっても収量が増えるようにやってくれたことが非常に大きい。
- c. 種類も幅広く作れるようにしていった
- d. 地震が起きたことで、コンパクトシティが進めることで行政のお金の支出の仕方を考え直す契機となった。
- e. 2020年は、1990年に都会の後追いをしたことを反省し、高知ならではの魅力の追求。その結果、たくさんある自然を使ってどう生きるかというコンテンツ開発を一生懸命やってくれた。

4 班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) 2035年に大震災が起こり、震災の被害は受けたが、それをきっかけに住みやすい町づくりが進み、より地域の魅力が高まっている。
- 2) 人口は自然減になっているが、県外に出ていく若者は減り、移住者も増えたことで社会増が実現している。
- 3) 30年前の人たちの意識もあるが、高知県の県民性、前向きなポジティブ感、地域の自己肯定感といったものがベースとなり、それがより発展した結果、2050年の社会が実現している。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a.2020年当時は人口減少をネガティブに捉えていたが、コロナ感染症が一つのきっかけとなり自分たちを見つめ直した。
- b.地域のことを見つめ直し、人口減を受け入れたことで生産性の向上やどういったことに取り組むかを前向きに捉えてくれた。
- c.企業・行政・大学の縦割り傾向でなく一致団結で地元、地域全体のことを考えたことで、デジタル化、エネルギーや食品の地産地消などに取り組めた。
- d.2035年に南海トラフ地震が発生したが、それまでに一致団結で防災に取り組んでいたおかげで被害は少なく済んだ。

5 班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) 家族がいて仕事も順調で、社会の不安もない安全・安心の社会になっている。
- 2) 2020年から政権交代を繰り返し、暮らしに直結した政治も変わってきている。
- 3) 高速大容量通信が実現し、全てが見える化になったことが安全・安心に繋がり、社会全体が安全・安心感が漂っている。
(例：将棋は人間がAIを上手く使って戦える、車、ドローン、農機具も自動運転で、農業では通信・機械・ロボットを使っている)
- 4) 一次産業は契約栽培ができるようになり安定した経営ができています。
- 5) 2020年当時からの安心安全でおいしくていいもの、という食が続いている。
- 6) 人口減によるシェアリングエコノミー。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a.2020年のコロナをきっかけに産業構造が大きく変わり、働き方改革も進んだことで、若者が都会に出なくても地域や地方に仕事があるという状況が出てきた。
- b.インターネットや通信技術の発達し、安全に使えるようになった。
- c.農業は契約栽培のような安心安定した経営もできるようになった。
- d.2020年の教育機関（例えば林業学校など）は現場と離れていて頭でっかちだった。
- e.脱炭素化を2050年を目標にして社会を変えようとした。その中で教育方針も変わり、現場で即使えるプロ人材を育ててくれた。
- f.自分で作ったものの販路や価格を決めたり、創り出していける価値もできてきた。
- g.種子や技術の流出など、他県に流れ損失になることのないようにした。
- h.地震に備えての高台移転、平野部は有効な農地にした。気候変動に対応した作物もできた。

6 班

【A】あなたたち将来人として描いた2050年の姿

- 1) AIやクラウドワークが進んだことで働き方改革が進み、自由に使える時間が増え、給料も増えている。
- 2) 余暇は家族のこと、自給自足で畑を作ったりするといった生きていく上でのライフライン、ライフスタイルとなった。
- 3) 働き方としては、Wi-Fi導入とドローンの活用やネットビジネスの普及と改善で、高知の山間部への移住が選択肢の一つとなっている。
- 4) 山間部に有能な人がいるのでわくわくする。
- 5) 魚の養殖が進み外洋での漁業は減ったが、食べるものとしての魚の質は上がっている。(例：高知ブランドのカツオ)
- 6) 仁淀川以外の川も仁淀ブルーのような水質になり、その水質改善のノウハウは国外にも販売の形で流通している。
- 7) 保険も共済の考え方で県や国の主導する共済に。(高知県共済・社会保障のシンプル化)
- 8) ドローンタクシーは山間部の有能人材の生活ラインや観光で。
- 9) 自動運転なので飲酒運転もなく、免許は身分証のようになっている。

【B】その実現のために2020年の高知県の人たちがどんな方向性を持って努力してくれたか

- a.地震時の津波に備えて、高知市の機能、県庁の機能を山間部に移動していたため、南海トラフ地震でも大きな被害はでなかった。知事が頑張ってくれた。
- b.入念なインフラ計画、細やかな計画。
- c.高知を動かす知事がフューチャー・デザインを学び、そういう上の立場の人がフューチャー・デザインを積極的に使ったことで高知の将来を変えていきたいという行動をしてくれた。
- d. (c.について) 高知に帰ってくる前提のような、授業のようなもので小さいときから根付ける。